

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

令和4年武道振興大会



第4回外国人留学生等対象 国際武道文化セミナー





池田佳隆文部科学副大臣



高村正彦日本武道協議会・
日本武道館会長



江渡聡徳武道議員連盟会長



3年ぶりに開催された武道振興大会

「恒例の武道振興大会が開催できま
すこと、深く御礼申し上げます。昨
年は東京オリンピック・パラリンピ
ックが開催され、柔道・空手競技で
は大きな活躍がありました。選手た
ちの活躍は国民に勇気と感動を与え
てくれました。そのことを本当に嬉
しく思い、より一層の武道振興に繫

がると期待しているところです。
平成24年度から中学校武道必修化
が始まり10年が経過いたしました。
近年では特に複数種目の武道授業が
実施できるようになり、武道の振興
が進んできたと感じる反面、モデル
校として実践している学校は157校の
みとなっており、今後は実践校
を増やし、これからの日本を支えて
いく子どもたちが『体・徳・知』を
実感できるような制度作りを願って
おります。そして、小学校において

令和4年武道振興大会（主催〓武道議員連盟・日本武道協議会・日
本武道館）が3月2日、東京・衆議院第一議員会館多目的ホールで開
催された。同大会はコロナ禍のため中止が続き、平成31年以来、3年
ぶりの開催となった。
大会には武道議員連盟所属の国会議員、各武道団体役員ら約160名が
出席。中学校武道授業に関し、外部指導者を活用した複数種目実施の
モデル事業の継続、中学校武道必修化の充実を目指し施設、用具、指
導者の条件整備の推進、武道の国際的普及・振興のための支援や助成
などを要望する決議文を採択し、高木陽介武道議員連盟副会長・理事
長から池田佳隆文部科学副大臣へ手渡された。
本大会は例年、憲政記念館で開催されているが、同館の建て替え工
事により変更となった。また、新型コロナウイルス感染症対策のため出
席者の制限など規模を縮小し、懇談会も取り止めとした。

決議文を池田佳隆文部科学副大臣に手渡す 武道振興大会を3年ぶりに開催

中学校
武道授業

外部指導者を活用した 複数種目実施校の更なる拡大へ



池田佳隆文部科学副大臣（右）に決議文を手渡す高木陽介武道議員連盟副会長・理事長

も武道を学ぶことのできる環境を作り上げていきたいと思えます。引き続き関係各位のご尽力とさらなるご協力をお願いしまして挨拶とさせていただきます」

続いて、高村正彦日本武道協議会・日本武道館会長が挨拶に立った。「日本の武道はそれぞれの武道がそれぞれの体系を持っています。さらに、『礼に始まり礼に終わる』『技を修練する中で心と体を鍛える』『普段の生活の中でも人が生きるべき道を求める』という共通点があります。この素晴らしい武道を青少年の健全育成に活用しようというところがあります」

多くの武道関係者の努力により、平成24年度に中学校武道必修化が実現いたしました。義務教育であるため、いずれ日本人なら誰もが武道に触れている状況になります。そして今後はできればその真髄に触れてもらいたいと考えています。そのためには学校教員と全国津々浦々の武道関係者の皆様が一体となって生徒たちに武道を教えることが重要となります。平成の時代は武道必修化によって仏（器）が完成いたしました。

それに魂を入れていくのが令和の時代です。そのためにも関係各位が一層積極的に学校現場に入って教員の皆様と切磋琢磨していくことが最重要課題だと思っております。皆様のより一層のご健闘をお願い申し上げます」

さらに、高木陽介武道議員連盟副会長・理事長が大会決議を読み上げると満場の拍手で採択され、池田佳隆文部科学副大臣へ手渡された。続いて末松信介文部科学大臣の代理として出席した池田副大臣が祝辞を述べた。

「武道は我が国固有の文化であり、礼節を重んじる武道に親しむことは自らを律し、相手を尊重する態度を養うなど、人間形成にも資するものであります。武道が中学校の保健体育で必修化され10年が経ちました。新しい学習指導要領では、我が国への伝統や文化への理解を深める観点から武道9種目を並列明記いたしました。合わせて令和元年度から国の事業として、学校における多様な武道種目の実践を支援しており、令和4年度もこの取り組みの充実に努めてまいります」

てまいります。

一方で、昨年も新型コロナウイルス感染症の影響により、武道をはじめさまざまな運動活動が制限され、それに関わる多くの関係者の皆様にとつて大変苦しい年でありました。文部科学省といたしましては、コロナ禍においても皆様が安心して活動に取り組めるよう、大会開催時の感染対策にかかる経費の支援や政府方針の情報提供など、必要な支援をしっかりと行つてまいり所存であります。関係者皆様への武道振興のご尽力に心から敬意を表しますと共に、皆様方ますますのご発展をご祈念いたしまして祝辞といたします」

この後、岸田文雄内閣総理大臣による祝辞文が吉川英夫日本武道館理事・事務局長より、読み上げられた。祝辞文は以下の通り。「武道は心技体を一体として鍛え、人格を磨き、道徳心を高め、礼節を尊重する態度を養う、人間形成の道です。」

今、時代は大きな転換点にあり、これまでの当たり前が通用しない時代を迎えようとしています。そうした中であつて、新しい時代を切り拓

く原動力となるのは『人間の力』です。

武道は全国1万余りの中学校で必修となっております。次世代を担う子どもたちをはじめ、多くの方々が、武道を通じ、人間形成を図り、人間の力を高めることは、日本の未来を切り拓いていくために大変重要な意味を持つと確信しております。本日お集まりの皆様が、平素から武道の振興にご尽力されていることに改めて敬意を表します。

今日のように、日本はもとより、世界中で日本の伝統文化である武道が親しまれ、愛されているのは、皆様のご尽力があつたからこそです。今後とも、より多くの皆様の心身の健全な発達のため、そして、武道を通じた日本理解や国際親善の増進のために力添えを賜りますことをお願い申し上げます」

その後、各武道団体代表者による挨拶が行われた（内容は174頁に記載）。最後に、高村正大武道議員連盟事務局長が閉会宣言を行い、大会は盛会のうちに幕を閉じた。

決議

我が国は、明治維新以来、驚異的な勢いで国力を増し、世界有数の経済大国となった。しかし、ここ十年来、国際情勢が厳しさを増す中、国力の低下が目立ち、少子高齢化や道徳心の乱れが相俟つて、国家、社会の将来を暗いものにしつつある。東日本大震災の爪痕は深く、復旧・復興は未だ道半ばである。

そのような折、国は国家再生へ向け、「国と郷土を愛する心、公共の精神、生命、伝統や文化の尊重」を盛りこんだ教育基本法の改正を実現した。誠に、ご同慶の至りである。

また、昨年夏に開催された東京二〇二〇オリンピック・パラリンピック競技大会では、柔道と新たに採用された空手が新装なった日本武道館で実施され、全力で戦う選手の姿は国民に勇氣と感動を与え、ともに、日本発祥の柔道、空手道の魅力が全世界に発信された。

武道界では、依然続く新型コロナウイルスによる様々な制約の中、各連盟・団体が創意工夫の取り組みで活動を再開し、稽古や交流を止めないための努力を一丸となつて続けている。翻つて、武道は、国民精神の根源、即ち武士道精神の真髄を基調とする、体・徳・知を一体としてはぐむ我が国固有の伝統文化で、文武両道、質実剛健を旗印とする国家、社会の繁栄と世界平和の実現に寄与する人間形成の道である。

よつて、ここに、青少年の健全育成を主眼とする、平成二十四年度完全実施の中学校武道必修化を成功させるとともに、武道のさらなる振興発展が図られるよう、左記事項の早期実現を強く要望する。

記

一 中学校武道必修化に関し、新学習指導要領に並列明記された武道全九種目が幅広く実施されるよう、外部指導者を活用した複数種目実施のモデル事業を全国各ブロックで継続して行うこと。そのために必要な措置を講ずること。

二 中学校武道必修化が充実、成功するよう、施設、用具、指導者の条件整備をより一層推進すること。

特に、指導者については、教員養成大学で武道を必修化し、中学校教員採用試験に武道を試験科目として位置付けるとともに、武道有段者の学生を積極採用するよう各都道府県教育委員会に働きかけを

行うこと。さらに、充実した授業が実施できるよう優れた外部指導者を各中学校に配置し、処遇改善を図つて、指導に万全を期すること。また、全国一万余校の中学校体育教員を対象とした武道指導者講習会を、関係武道団体の協力を得て、実施すること。授業に当たっては、時間を増やし、複数種目の実施校拡大を図り、武道ならではの教育効果が上がる「礼」を重視した指導を徹底すること。これに関わる武道九種目の指導者研修会や指導法研究、指導書作成等、関係団体の諸活動に必要な支援、助成を行うこと。

三 将来の小学校における武道授業の実施へ向け、実践校における実践研究をより積極的に展開し、発達段階に応じた武道九種目の指導法研究を行い、準備を推進すること。

四 東京二〇二〇オリンピック・パラリンピック競技大会における柔道・空手道競技の成功を受け、武道の国際的普及振興のため、国内外における武道の国際大会や国際交流事業をより一層推進するとともに、海外日本人学校における武道必修化の内容充実に向け、必要な支援、助成を行うこと。

五 全国的な武道の普及振興をより確かなものとするため、全国都道府県立武道館協議会の活動に対する支援と、各都道府県武道協議会の設置促進に必要な支援を行うこと。

六 武道の源流である千数百年の歴史を有する古武道の保存・継承を図るため、伝統流派の活動の成果を認め、文化財保護法に、我が国が世界に誇る「古武道」の名称を明記し、全国各地の古武道の文化財指定が推進されるよう所要の措置を講ずるとともに、文化庁長官表彰の授与など必要な支援、助成を行うこと。

七 武道場の整備については、中学校武道必修化を含め、国の補助制度を拡充するとともに、必要な支援、助成を図ること。全国の町道場については、維持存続のため、相続税、固定資産税の減免措置を講ずること。

以上、武道議員連盟・日本武道協議会・日本武道館三者によって共催する武道振興大会の名において決議する。

令和四年三月二日

各武道団体代表者挨拶



中里壮也
全日本柔道連盟専務理事



網代忠宏
全日本剣道連盟副会長



浅野有三
全日本弓道連盟副会長



南和文
日本相撲連盟会長



栗原茂夫
全日本空手道連盟副会長



植芝守央
合気会理事長



川島一浩
少林寺拳法連盟会長



中村ゆり子
全日本なぎなた連盟副会長



番匠幸一郎
全日本銃剣道連盟会長

◎全日本柔道連盟・中里壮也専務理事
「昨年開催されました東京オリンピックにおきましては皆様のご支援・ご声援のおかげで相応の成績を収めることができました。ただ、各階級を見ますと世界との差は決して大きくありません。今一度、兜の緒を引き締めて、2年半後に迫ったパリオリンピックへの準備に取り組んでまいります。また、東京パラリンピックに関しましては全力で取り組めたことを大変嬉しく思います。今後も障がいのある方も一緒に柔道の楽しさを共有していきたいと思っています」

◎全日本剣道連盟・網代忠宏副会長
「コロナ禍の下、各連盟においては大変苦労されていることと存じます。剣道連盟も感染防止ガイドラインを遵守しながら状況に応じて活動を続けております。昨年は全日本選手権大会を男女共に開催したのをはじめ、いくつかの大会を開催することができました。また、国際大会においては第18回世界剣道選手権大会を5月に開催予定でしたが中止となりました。現在は19回大会を見据えて検討を行ってまいります。令和4

年度も肅々と安心・安全を第一に活動を続けてまいります」

◎全日本弓道連盟・浅野有三副会長
「日頃から本連盟の諸事業に深いご理解とご協力をいただき、心から御礼申し上げます。また、この度の東京オリ・パラでの柔道競技・空手競技の活躍に改めて賛辞を申し上げます。さらにその際に他の武道を紹介する機会をいただきましたことも改めて御礼申し上げます。令和3年度、本連盟は新型コロナウイルスの影響を受けつつも多くの事業を実施いたしました。昇級審査においてはビデオ審査を取り入れるなど、コロナに対応した新しい企画も模索しております。残念ながら指導法研究事業や指導者研修会は中止になってしまいましたが、今後も中学校武道必修化を推進してまいります」

◎日本相撲連盟・南和文会長
「本席にご参加の先生方には日頃よりアマチュア相撲に格別のご理解を頂戴いたしました心より御礼申し上げます。東京オリンピックが成功裏に実施されました。IOC承認団

の国際連盟は相撲が唯一、日本に事務局を置いています。今後は先生方のご指導を頂戴しながら正式競技の採用に向けて頑張ってまいります」

◎全日本空手道連盟・栗原茂夫副会長
「東京オリピックでは全国の皆様の熱い声援で金・銀・銅三つのメダルを獲得することができました。本連盟はオリピックをレガシーとして、今後の国内大会の充実を図っていききたいと思っております。小学生を対象とした全日本少年少女選抜大会、青少年を対象とした全日本団体重別選手権、そして全日本団体形選手権、この三つの大会を新たに開催し、競技力の向上、会員の増強に繋げていきたいと思っております。また、空手道は全国の中学校で490校採用されています。今後、1千校を目指し、さらなる努力をしてまいります」

◎合気会・植芝守央理事長
「合気会はこの2年間、国内外多くの活動が新型コロナウイルスの影響を受けております。そうした状況の中、できることを精いっぱい行うという気持ちで歩んでまいりました。

今年も、感染症が収束することを願いながらさまざまなことに取り組んでまいりたいと思っております。特に中学校や高等学校、大学の若い生徒・学生に目を向けてしっかりと歩んでまいりたいと思っております」

◎少林寺拳法連盟・川島一浩会長
「当連盟につきましてもコロナ禍による各道場の修練、学校の部活動などでさまざまな制限が行われ、大変厳しい状況が続いております。各種行事や研修会も中止せざるを得ない状況ではございますが、第25回全国高等学校選抜大会は3月25日から3日間、香川県にてコロナ対策を十分に講じ、無観客で開催予定となっております。本年はコロナに怯むことなく、さまざまな活動を再開し、不屈の精神を持って果敢にチャレンジしていききたいと思っております」

◎全日本なぎなた連盟・中村ゆり子副会長
「当連盟も一昨年からコロナ禍により今まで続けていたことが止まるという不安と恐怖を初めて感じました。しかし、私たちは武道が相手との間と間合いを見切って動くという

ことを体験しております。こうした状況にも慌てず騒がず、方向を定めて今何をなすべきかをしっかりと見つめました。ガバナンスコードの達成や中学校武道必修化の実現のため何をどう展開していくのかをじっくり話し合った上で一部の事業を再開いたしました。人にとって集まることは嬉しく、大事なことであると事業を通して改めて感じました。これからもその気持ちを大事にしながら進んでいきたいと思っております」

◎全日本銃剣道連盟・番匠幸一郎会長
「銃剣道は古来から続く槍術と明治以降に取り入れられた銃剣術が融合して日本独自の武道として発展してまいりました。中学校武道の必修化が始まった時は採用校がほとんどありませんでした。しかし、モデル校や複数種目の授業により、現在の採用校はもう少しで2桁にまで迫ろうとしています。今後は3桁まで増やしていけたらと考えております。今できる組織改革や意識改革、自分のできる稽古をもっと進めていこうと思っております」

大使、留学生が武道の極意に触れる



第4回

外国人留学生等対象国際武道文化セミナー

3年ぶりの開催 日本武道館で

外国人留学生と在日大使館に勤務する外国人を対象とした第4回外国人留学生等対象国際武道文化セミナー（主催Ⅱ日本武道館、後援Ⅱスポーツ庁、外務省、千葉県勝浦市、日本武道協議会、協力Ⅱ国際武道大学）が3月6日、中国、フランス、ウズベキスタンなど19の国と地域から31名が参加して日本武道館で開催された。

本セミナーはコロナ禍で一昨年、昨年と中止され、3年ぶりの開催。当初、3日間の予定だった日程は感染防止のため1日に短縮し、参加人数も大幅に絞った開催となったが、講義と模範演武、武道体験と濃密なスケジュールに、参加者は日本の伝統文化を吸収しようと、熱心に取り組んだ。

開講式では主催者を代表して吉川英夫日本武道館理事・事務局長が挨拶を述べた。

「武道は日本が誇る伝統的運動文化です。皆様方にはこのセミナーを通して、歴史を背景とした武道の技術

性、精神性、文化性に少しでも触れていただければ幸いです。ほとんどの方が武道未経験、あるいは初心者であると思います。しかし、『学ぼう』という本気度が伝わってきます。講師の先生方は、日本を代表するその道の達人ばかりです。セミナーを大いに楽しみつつ、少し厳しく、日本の武道の持つすばらしさを味わっていただきたいと思います」

続いて、長尾進明治大学国際日本

学部教授による特別講義「日本の武道が大切にしてきたもの」が行われた。参加者は皆、真剣な眼差しで受講し、講義後には次々と質問が出された。

休憩後、大道場に移動し、講師による模範演武が行われた。弓道、皮切りに、銃剣道、少林寺拳法、柔道、剣道、空手道、なぎなた、合気道、相撲の順に熱のこもった演武が披露された。その後、大道場いっぱい広がり、体験武道に移った。30分間という短時間であったが、参加者は思い思いに各武道を体験した。

閉講式では、鈴木達也日本武道館振興部長が挨拶を行い、全日程が終了した。

■ 特別講義

「日本武道が大切にしてきたもの」



長尾 進
(明治大学教授)

▽現代9武道の特徴

日本の武道、すなわち現代武道9種目（柔道、剣道、弓道、相撲、空手道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、銃剣道）や古武道（古流武術）は、日本の中世・近世にかけて成立した武術（武芸）に伝わる戦闘・格闘の技術をベースにしています。この点では、世界の多くの国や地域で行われている武術や格闘技と共通するものがあります。しかし、日本の武道は単に戦闘・格闘技術の習得だけを目的とするのではないところに特長があります。

▽新陰流における「転」の工夫
新陰流を創始した上泉信綱は、

相手を攻撃するのではなく、相手のどのような攻撃に対しても柔らかく対応できる「転」という妙術を編み出しました。パワーやスピードで相手を圧倒し、殺傷する剣術（殺人刀）から、相手の攻撃を活かした上でそれを制する剣術（活人剣）への

転換でした。日本の武道は、基本的には自衛的で平らか（平和）な状態を希求するもので、流派によっては兵法ではなく平法と唱えました。

▽柔術・柔道、捕縄術に見る平法

日本の柔術・柔道の技術は、元をたどれば甲冑をつけた戦闘における組討ちの技術の中から生まれてきたといわれます。また、柔術・柔道には古来、「殺法・活法」という考え方があります。当身技は東洋医学の経絡とほぼ符合する急所へ向けての打撃であり、「殺法」と呼ばれます。これに対して、同じく急所を用いるのですが、相手を回復させる技法を「活法」と呼びました。

日本で最も古い柔術流派として知られているのが竹内流です。竹内流（相伝家）は正式には「竹内流柔術腰廻小具足」と称し、戦国時代の組討ち、捕手腰廻小具足を中核にした総合武術であり、柔術の源流ともいわれます。

竹内流（相伝家）の演武を見るとわかりますが、柔術の各技に加え活法や捕縄術も含まれており、捕縛した相手を開放するときに、縄が解きやすい結び方が施されています。さらに、その捕縛さえもしないことを良しとするとうかがっています。縄をかけたたり殺傷することなく、相手を降伏・従順させることこそ、兵法の常道とされます。柔術や捕縄術にも「平法」の思想・理想が流れているように思います。

▽生涯にわたる向上心の継続

武道では「向上心の継続」を大事にしています。柳生石舟斎は「昨日の我に今日は勝つべし」と言いました。また、宮本武蔵は「今日は昨日の我に勝つと思え」と鍛錬の大事さを説いています。日本の武道は、可能な限り生涯にわたって、向上心を

持つて修行に取り組むことを大切にしています。

▽礼に始まり、礼に終わる

このような特長を持つ武道は、自分が競う相手や、ともに修行する人に敬意を表する「礼」を大事にします。武道における礼法や、日本人が今でも日常生活に受け継いでいるお辞儀や正座の仕方、すり足などの身体文化は、武家の礼法に由来しています。

▽精力善用・自他共栄

さらに武道は、近代に入ってから他の外来スポーツ文化の影響も受けながら、競技として大きく発展を遂げ、柔道と空手道はオリンピックの種目にもなりました。そのこと自体は大変すばらしいことです。一方で武道関係者が最も大切にするのは、柔道の創始者である嘉納治五郎師範が説いた「精力善用・自他共栄」の精神です。武道で修養した精神や体力を世の中に有効に活用し、その上で世界の多くの人たちとともに発展していくことが、日本武道の願いとするところです。



少林寺拳法



剣道



なぎなた



弓道

講師模範演武

〈演武内容〉

- 弓道 = 持的射礼
- 銃剣道 = 銃剣道の形及び短剣道の形
- 少林寺拳法 = 基本単独演武、剛法系、柔法系、剛柔一体の法系
- 柔道 = 固の形
- 剣道 = 日本剣道形
- 空手道 = 松濤館流しょうとうかんの形「明鏡」めいきょうの演武と分解組手、「周氏の棍」の演武と分解
- なぎなた = 全日本なぎなたの形1～7本目
- 合気道 = 基本技・短刀取り・自由技
- 相撲 = 塵手水、四股、股割、すり足、三番稽古、ぶつかり稽古

(演武順)



合気道



銃剣道



空手道



相撲



柔道

▽質疑応答

Q 「柔道の紅白帯は何段ですか」

A 「柔道では初段から五段までが黒帯、六〜八段が紅白帯（黒帯着用可）、九、十段が赤帯となります」

Q 「弓道の射礼で2本以上の矢を使うことはありますか」

A 「本日演武したのは射礼です。射礼では2本が基本となっております、それ以上もそれ以下もありません」

Q 「少林寺拳法は特殊な服装ですが、こういった意味がありますか」

A 「普段は白い道着ですが、公式な場では法衣が正装となります」

Q 「なぎなたで一番重視することは何ですか。また、なぜ女性が多いのですか。最後に剣道と一番違う点は何ですか」

A 「稽古する上で一番大事なことはなぎなたを強く握らず、柔らかく扱い、自分の体の近いところで操作することです。女性が多いのは力が弱い女性でも稽古を積むことにより長いなぎなたを扱えるようになることが一つの理由だと思います。剣道との違いは扱う道具が違います。それに伴い相手との距離、いわゆる間合いが違います」

体験武道



初めて持つ弓と矢の扱いに大苦戦



二人組での面打ち



真剣な表情での立ち合い



空手の突き



木銃を使い、ミット目がけての突き



講師、参加者全員での記念撮影（撮影時のみマスクを外しています）

好評発売中!

剣道の持つ文化としての多様な面を、時代を追いながら
わかりやすく紹介。

剣道の文化誌

— 剣術・撃剣・剣道、その文化としての成り立ち —

明治大学教授・剣道範士八段

長尾 ながお

進 すすむ 著



四六判・上製・480頁・定価2,640円

◎ ご注文・お問い合わせ ◎

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>

【参加者の声】

▽リーナ アンナーブさん

(ヨルダン大使)



「今日は日本の武道を学ぶ機会に恵まれ、特別な一日でした。相撲をはじめとした講師の先生方による武道演武、そして長尾教授の講義は本当にすばらしかったです。」

どのように日本の伝統を継承し、時代に合わせて進化させていくかを知ることができました。また、伝統に則って物事を進めたり、日本人の生活において非常に大切な文化的側面を学

ぶことができ、大変貴重な体験ができました。本国の学生が留学して武道を経験できるよう尽力したいと思います」

▽フェルナンダ コスタ ペス

デ アルメイダさん

(ブラジル・東京藝術大学留学生)



「当初の予定では感染の心配がありましたでしたが」

1日での開催に変更になったので安心して参加できました。私は弓道を7年間学んでいます。さまざまな武道について知ることができ、とてもうれしかったです」

〈講師・通訳〉

- 特別講師=長尾 進 明治大学国際日本学部教授
- 柔道=山本三四郎 (七段) 講道館審議部課長
- 越野 忠則 (七段) 国際武道大学助教
- 剣道=蒔田 実 (範士八段) 全日本剣道連盟常任理事
- 井島 章 (教士八段) 国際武道大学教授
- 弓道=佐藤 昌仙 (教士八段) 全日本弓道連盟中央委員
- 高井 幸子 (教士八段) 全日本弓道連盟中央委員
- 相撲=伊東 良 (五段) 日本体育大学助教
- 田畑奨治郎 (弐段) 日本体育大学
- 空手道=豊田 浩 (錬士七段) 三田空手会理事
- 三宅 秀俊 (二段) (株) MIYAKE 代表取締役
- 合気道=入江 嘉信 (七段) 合気会合気道本部道場指導部師範
- 小山 雄二 (六段) 合気会合気道本部道場指導部師範
- 少林寺拳法=村瀬 晃啓 (准範士七段) 少林寺拳法連盟東京事務所所長
- 川島 佑斗 (正拳士五段) 少林寺拳法連盟職員
- なぎなた=小野 恭子 (範士) 全日本なぎなた連盟評議員
- 今浦 千信 (教士) 全日本なぎなた連盟常務理事
- 銃剣道=佐藤 亨 (範士八段) 全日本銃剣道連盟理事
- 小川 功 (範士八段) 全日本銃剣道連盟競技力向上委員
- 通訳=アレキサンダー・ベネット 関西大学教授
- ブルース・フラナガン 東京経済大学特任講師